

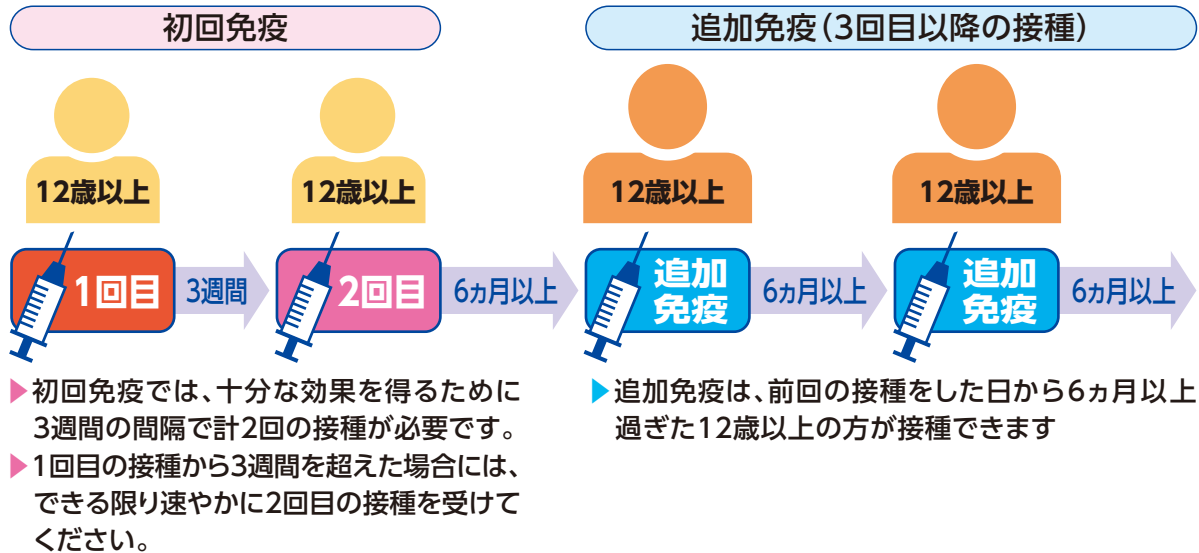
ヌバキンビッド®筋注の接種を受ける方へ

この冊子は、新型コロナウイルスワクチン「ヌバキンビッド®筋注」の接種を受けた方、または、接種を受ける予定のある方とご家族など、一緒に暮らしている方々に知っておいていただきたい情報を掲載しています。お住まいの自治体からのご案内や情報とあわせてご確認ください。

※以下「ヌバキンビッド®筋注」を本ワクチンと言います

ヌバキンビッド筋注は接種された方の新型コロナウイルス感染症の発症を予防するワクチンです

- 初回免疫・追加免疫で本ワクチンを接種できる年齢や接種間隔等は以下のとおりです。



- 本ワクチン接種後も基本的な感染予防対策（マスクの着用、密集・密接・密閉の回避、手洗いや咳エチケット等）を行ってください。
- 本ワクチンの接種後に副反応（発熱や倦怠感、痛み等）があらわれる可能性を考慮して接種当日や翌日の予定を立てることをお勧めします。

1回目に本ワクチンを接種した方は、原則として2回目も本ワクチンの接種を受けてください

2回目の接種日は、お住まいの自治体や接種を受けた医療機関等でご確認ください

初回免疫：2回目の接種日

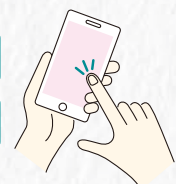
初回免疫：2回目の接種会場

月 日 () 午前 :
 午後



1回目のワクチン接種時に2回目の予約をしましょう

携帯またはカレンダーに2回目の予約日を記入しましょう



又バキソビッド筋注を 接種する前 のご注意

以下に該当する方、該当すると思われる方は、
必ず接種前に医師に申し出てください

※該当する方は□に
☑をつけておきましょう

● 以下に該当する方は「本ワクチンを接種できない方」です

- 明らかに発熱(通常37.5℃以上)している方
- 重篤な急性疾患にかかっている方
- 過去に本ワクチンを接種した時にショック、アナフィラキシーがあらわれた方
- 過去に本ワクチンに含まれている成分で重度の過敏症*のあった方
- 上記以外に医師が予防接種を行うことが不適当な状態にあると判断した方

*: アナフィラキシー、全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸(どうき)、息苦しい、血圧低下等のアナフィラキシーを疑わせる複数の症状

● 以下に該当する方は「本ワクチンの接種に注意が必要な方」です

- 血小板減少症や凝固障害のある方、または抗凝固療法を受けている方
- 過去に免疫に異常があると診断されたことがある方や両親や兄弟など近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- 心臓や血管、腎臓、肝臓、血液の病気や発育障害などの基礎疾患のある方
- 今までに、予防接種を受けた後2日以内に発熱があった方や全身性の発疹などアレルギーが疑われる症状が出たことがある方
- 過去にけいれんをおこしたことがある方
- 本ワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれがある方
- 腎機能障害のある方
- 肝機能障害のある方
- 妊婦または妊娠している可能性がある方、妊娠の計画がある方、授乳されている方
 - 予防接種の有益性(授乳婦では母乳栄養の有益性も)が危険性を上回ると判断された場合にのみ接種を受けてください。
- 高齢の方
 - 「ご自身の健康状態」を接種前の診察時に忘れず伝えましょう。

● 以下に該当する方は、接種前に医師に相談してください

- いつもと体調が違う、なんとなく調子が悪い方
- 予防接種に緊張したり注射針や痛みに対して不安がある方
- アレルギー疾患や食物アレルギーのある方、医薬品でアレルギー反応の経験がある方
- ワクチンの接種についてなんらかの不安がある方

又バキソビッド筋注を接種した後のご注意

ワクチン接種後、15～30分程度は 接種医療機関(接種会場)の施設内等で安静にしてお待ちください

接種を受けた直後～通常30分程度の間、ショックやアナフィラキシーがあらわれる可能性があります。

また、ワクチン接種に対する緊張や痛みなどをきっかけに、血管迷走神経反射があらわれる可能性もあります。

そのため、ワクチン接種後、15～30分程度は接種医療機関(接種会場)の施設内等で、背もたれのある椅子に座るなど、ゆったりとした気持ちでお待ちください。

そして、以下の症状や何か異常を感じた場合には、ただちに、接種会場の医師、看護師等にお伝えください。

ショックやアナフィラキシーの兆候

- 全身：冷汗が出る、ふらつき
- 顔面：顔面蒼白(そうはく)
- 胸部：動悸(どうき)、息苦しい
- 皮膚：全身のかゆみ、じんま疹
- 頭部：めまい、意識の消失
- 口や喉：喉のかゆみ
- 手・足：手足が冷たくなるなど

血管迷走神経反射による主な症状

- 立ちくらみ
- 血の気がひく(時には気を失うこともある)

※ お待ちの間も感染対策をお願いいたします

- ▶ マスクをする
- ▶ となりの人との距離をとる
- ▶ 会話を控える など



お待ちいただいた後でも、上記のような症状や、いつもと違う体調の変化や異常を感じた場合は、速やかに接種を受けた医療機関等の医師や看護師、あるいはかかりつけ医に連絡してください。

- 本ワクチン接種後は、裏表紙に書いてあるような副反応の発現に注意してください。そして、高熱やけいれん等の異常な症状があらわれた場合は、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 注射した部分は清潔に保つようにしてください。
- 接種当日の入浴に特別な問題はありませんが、接種当日を含め、接種後に体調がすぐれない場合は無理をせず様子を見てください。また、注射した部分を強くこすらないようにしてください。
- 接種当日の激しい運動は控えてください。
- 本ワクチン接種後も基本的な感染予防対策(マスク着用、密集、密接および密閉の回避、手洗いや咳エチケット等)が必要です(他の人へ感染させない効果はわかりません)。



Q1 ヌバキソビッド筋注は、どのようなワクチンですか？

A1

ヌバキソビッド筋注には、遺伝子組み換え技術により作製された、新型コロナウイルスが人に感染する時に重要な働きをするタンパク質(スパイクタンパク質)が含まれています。このスパイクタンパク質は、私たちの身体にとっては異物なので、本ワクチンを接種することで、異物であるスパイクタンパク質を標的に攻撃や排除をするため、もともと体に備わっている「免疫機能」が活性化します。加えて、本ワクチンには免疫機能を補助する成分も含まれています。これらにより、スパイクタンパク質を持っている新型コロナウイルスの感染症から身を守ることができるようになります。

Q2 追加免疫は、なぜ、必要ですか？

A2

初回免疫を終えた方でも、新型コロナウイルス感染症にかかることがあります。理由は様々ですが、時間の経過により新型コロナウイルスに対する免疫機能が低下することなどが要因の一つと考えられます。そこで、再度、免疫機能を高めるために接種するのが追加免疫です。厚生労働省のホームページもご参照ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_booster.html

Q3

新型コロナウイルスワクチンの接種を受ければ感染予防対策はしなくてよいですか？

A3

ワクチンを受けた方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、ワクチンを受けた方から他人への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。このため、引き続き、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いします。具体的には、「3つの密：密集・密接・密閉」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。

Q4

ワクチン接種を受ける前や受けた後に気をつけることは？

A4

接種を受ける前

原則としてワクチン接種は体調が良い時に受けましょう。体調に不安がある方、医薬品でアレルギー反応の経験のある方、食物アレルギーやアレルギー疾患のある方、予防接種に緊張したり注射針や痛みに対して不安がある方等、接種に際し何等かの不安がある方は接種前に必ず医師に相談してください。

接種を受けた後

まれにワクチン接種に対する緊張や痛みをきっかけに気を失う(失神する)ことがあります。失神による転倒を防ぐためにも、接種後30分程度は体重を預けられる場所(例：背もたれや肘掛けのある椅子で体重を預けて座る等)でなるべく立ち上がらないようにしてください。また、ワクチンの接種によりショックやアナフィラキシーなどの重いアレルギー反応が起きることがあります。医療機関内にいることですぐに対応できます。しばらくの間は接種を受けた医療機関等の施設内にいるようにしましょう。

Q5

過去に他のワクチンや医薬品、食品、化粧品に対してアレルギー反応が出たことがありますが本ワクチンを接種しても問題ないですか？

A5

事前にかかりつけ医に相談するか、接種当日、予診票にできる限り詳しく記入し、医師に相談しましょう。(アレルギーをおこしたことがあるものを事前書き出しておきましょう)

Q6

妊婦(妊娠している可能性がある)が、本ワクチンの接種を受けても問題ないですか？

A6

医師と相談し、予防接種上の有益性が、危険性を上回ると判断される場合にのみ接種を受けてください。

Q7

授乳中の場合、本ワクチンを接種しても問題ないですか？

A7

医師と相談し、予防接種上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討してください。なお、本剤及び本剤に対する抗体が乳汁中にどれだけ移行するかはわかりません。

Q8

小児や乳幼児に対して本ワクチンを接種できますか？

A8

本ワクチンの接種対象は初回免疫、追加免疫ともに12歳以上の方です。初回免疫及び追加免疫における12歳未満の方への有効性、安全性は確立していません。

Q9

初回免疫において、本ワクチン接種の1回目と2回目の間隔が、3週間以上空いてしまった場合は、どのようにすればよいですか？

A9

できる限り速やかに2回目の接種を受けてください。

Q10

ワクチンの副反応の心配はありますか？

A10

ワクチンの接種によって、副反応が起きることがあります。気になる症状、いつもと違う体調の変化が認められた場合には、速やかに医師などにご連絡ください。万が一、ワクチンの接種によって健康被害が生じた場合には、国による予防接種健康被害救済制度がありますので、お住まいの各自治体に相談してください。

Q11

新型コロナウイルス感染症や新型コロナウイルスワクチンの接種に関するお知らせを確認するには、どのようにすればよいですか？

A11

厚生労働省のホームページ(<https://www.mhlw.go.jp/>)に新型コロナウイルスやワクチンについての情報が公表されています。

また、ワクチン接種の詳細については、お住まいの各自治体(市町村区)にお問い合わせください。

Q12

本ワクチン接種後に報告されている心筋炎や心膜炎について教えてください

A12

本ワクチン接種との因果関係はわかりませんが、本ワクチン接種後に心筋炎や心膜炎を発症した事例が報告されています。

本ワクチン接種後に胸の痛み、動悸(どうき)、息切れ、むくみなどの症状がみられた場合は、速やかに医療機関を受診して、本ワクチンの接種を受けたことを伝えてください。

これらの症状は、心筋炎や心膜炎の典型的な症状です。ただし、そのほかの原因でもこれらの症状が現れることがあります。医師の診察を受けましょう。



ヌバキソビッド筋注の接種日以降にあらわれるかもしれない副反応

● 注射部位症状:

何らかの注射部位症状が、本ワクチンの1回目接種(初回免疫)では約6割の方に、また、2回目接種(初回免疫)及び、3回目接種(追加免疫)では約8割の方にあらわれると報告されています。

あらわれる注射部位症状は、ひとによってさまざまですが、主に以下の症状があらわれます。

注射した場所の痛み・圧痛(押すと痛い)、腫れ、発赤(赤くなる)など

● 全身症状:

何らかの全身症状が、本ワクチンの1回目接種(初回免疫)では約5割の方に、また、2回目接種(初回免疫)及び、3回目接種(追加免疫)では約7割の方にあらわれると報告されています。

あらわれる全身症状は、ひとによってさまざまですが、主に以下の症状があらわれます。

頭痛、悪心(はき気)・嘔吐、疲労、倦怠感、筋肉痛、関節痛、手足が痛い、悪寒、発熱など

2回目および3回目の接種をした後にあらわれる場合では重めの症状が1回目の場合よりも多くなる傾向があります。

全身症状の多くは軽く、1~3日で消失しますが、高熱やけいれん等の異常な症状があらわれた場合は、すみやかに医師の診察を受けてください。

これらの症状は、多くの場合、接種後1~2日以内にあらわれますが、稀にこれよりも遅く(概ね1週間以内)あらわれることもあります。

また、高齢者よりも非高齢者に、また、男性よりも女性に多くあらわれる傾向があります。

これらは、本ワクチン接種によりあらわれる副反応のすべてではありません。

本ワクチンを接種した後、特に数日間は、ご自身の健康や体調の変化に注意し、ふだんと変わったことがあった場合は、医師に相談してください。

※万が一、本ワクチンの接種によって健康被害が生じた場合には、国による予防接種健康被害救済制度があります。お住まいの各自治体(市町村区)に相談してください。

医療機関名

本ワクチン接種に関する最新の注意点などは、武田薬品
COVID-19ワクチン関連特設サイト(日本)で確認できます。
URL https://www.go-beyond-covid-19.jp/patients_inoculation/



武田薬品工業株式会社